



令和3年度 第10号

明倫小学校校長室だより

R4.1.31 (発行者 千田)

つい先日、3学期の始業式があったように感じますが、まもなく1月が終わろうとしています。

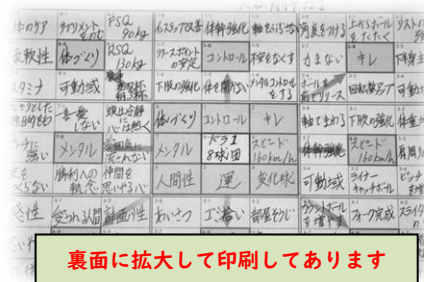
『1月は行く、2月は逃げる、3月は去る』とよく言われます。3学期は非常に短く感じる学期です。実際に本年度の二学期は90日の授業日があったのに対し、三学期は48日(※6年は46日)ととても短い学期です。

三学期始業式では、「目標を持つことの大切さ」について、大谷翔平選手をとりあげて説明しました。

昨年大谷選手は、メジャーリーグにおいて「投手として9勝」「打者として46本塁打」と大活躍しMVPを受賞しました。また『二刀流』が流行語大賞に選ばれるなど、コロナ禍で暗いニュースが多い中、国民に勇気と元気をあたえてくれました。

日本のみならず、二刀流の活躍はベーブルース以来であり、アメリカでも大きな話題となりました。大谷選手がこのような大活躍をしたのは、恵まれた才能の持ち主であっただけでなく、子どもの頃から将来の目標を持ち、その目標を達成するためにしなければならないことを明確にしていたからだと思います。右の写真は、始業式で紹介した大谷選手が高校の時に作成した「目標達成シート」です。高校生の時に、このようなものを作成するとは、アスリートとしても人間としても本当に素晴らしい人物だと感じました。それ以来、私は彼のファンとなり、日本ハム在籍時に札幌ドームまで応援しに行きました。

練習の虫と言われる大谷選手は次のように話しています。



裏面に拡大して印刷してあります

野球を始めた小学3年生の時から、自身を持って「ぼくはプロ野球選手になる」といい続けてきた。そして、一度としてプロ野球選手になれないんじゃないかと思ったことはなかった。



野球が頭から離れることはないんです。オフに入っても常に練習していますもん。休みたいとも思いません。努力してないわけではないんですけど自分が「やりたい」と思える練習であれば努力だと思っていない。

勉強もスポーツも『やる』か『やらされる』のどちらかです。「しぶしぶやらされる勉強」が「自発的にやる勉強」に変われば、きっと成績も大きく向上すると思います。どうせやらなければならないなら、大谷選手のように自発的にやれるようになるといいですね。

三学期より、学習支援員として明倫小学校で勤務されています。



オミクロン株の感染拡大に伴い、2月実施予定の行事は延期や中止という方向で考えています。詳細については、28日に配布した文書をご覧ください。日常の学校生活においては、集会、縦割り遊びの中止。給食時の密を避けるため、1年と2年は多目的室で給食を食べることにしました。今後も更なる感染予防に努めていきたいと思っています。

毎日、明倫小の子どもたちから元気と笑顔をいただいています。3月までの短い間ですが、よろしくお願いします。

## 目標達成シート

大谷選手は「**ドラ1 8球団**」の目標を達成するためには、「**運**」も必要だと考え、その「**運**」をたぐりよせるために「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「審判さんへの態度」「本を読む」「応援される人間になる」「プラス思考」「道具を大切に使う」の実践を積み重ねてきたそうです。大谷選手は、ゴミが落ちていたとき、拾わずに通り過ぎようとする、ゴミから「お前、それでいいのか?」と呼ばれているような錯覚に陥るそうです。記者からゴミ拾いの理由を聞かれた時、「他人がポイッと捨てた運を拾っているんです。」と答えています。その結果、プロ野球選手として一流であるだけでなく、誰からも愛される人間性も兼ね備えた選手になれたのだと思います。ただ大谷選手のことを知っている子が、全校児童の中で、10人もいなかったのはとても残念です。ただ明倫小にも大谷選手のように、本を読み、自分なりの決意を持った子がいますので、以下に紹介します。

| 体のケア            | サブメントを飲む | FSQ90kg   | インステップ改良    | 体幹強化       | 軸をぶらさない       | 角度をつつける          | 上からボールを叩く            | リストの強化    |
|-----------------|----------|-----------|-------------|------------|---------------|------------------|----------------------|-----------|
| 柔軟性             | 体力       | RSQ130kg  | リリースポイントの安定 | コントロール     | 不安をなくす        | 力まない             | キレ                   | 下半身主導     |
| スタミナ            | 可動域      | 食事夜7杯朝3杯  | 下肢の強化       | 体を開かない     | メンタルコントロールをする | ボールを前でリリース       | 回転数アップ               | 可動域       |
| はっきりとした目標、目的を持つ | 一言一葉しない  | 頭は冷静に心は熱く | 体力          | コントロール     | キレ            | 軸で回る             | フォーク完成               | スライダーのキレ  |
| ピンチに強い          | メンタル     | 雰囲気は流されない | メンタル        | ドラ1 8球団    | スピード160Km/h   | 体幹強化             | スピード160Km/h          | 肩周りの強化    |
| 波をつくらない         | 勝利への執念   | 仲間を思いやる心  | 人間性         | 運          | 変化球           | 可動域              | ライナーチャッチボール          | ピッチングを増やす |
| 感性              | 愛される人間   | 計画性       | あいさつ        | ゴミ拾い       | 部屋そうじ         | カウントボールを増やす      | フォーク完成               | スライダーのキレ  |
| 思いやり            | 人間性      | 感謝        | 道具を大切に扱う    | 運          | 審判さんへの態度      | 遅く落着のあるカーブ       | 変化球                  | 左打者への決め球  |
| 礼儀              | 信頼される人間  | 継続力       | プラス思考       | 応援される人間になる | 本を読む          | ストレートと同じフォームで投げる | ストレートからボールに投げるコントロール | 奥行きをイメージ  |

### 青少年読書感想文全国コンクール福井県審査優秀賞

『自分の弱さを受け入れ 強く生きていく』

明倫小6年 児童

「一人の人が後ろ姿で、高い雪山に向かって歩いている」この本の表紙に描かれている絵です。力強くもあり、でも優しい絵でした。「きつと飛ぶための百歩」に向かって、一歩ずつ一歩ずつ地面をふみしめながら歩いているのだろーと思ひ、私はページをめくっていきました。

読み始めるとすぐに言葉の美しさにひかれました。「満点の星が輝く夜空の香りが鼻をつき、真夜中に目が覚めた」この一文に私の心はひきつけられました。

「満天の星」ではなく「満点の星」です。私はテストで百点満点をとった時の気持ちを思い出し、そんな星空を見てみたいと思いました。「夜空の香り」という表現も素敵だと思いました。夜空の香りなど、私は感じたことがなかったからです。

この物語に出てくるルーチョは、目が見えません。ルーチョはそんな自分の弱さを受け入れ、強く生きています。私はそんなルーチョの強い生き方に感動しました。

私は今年、六年生になり、児童会長に立候補しました。なぜ立候補したかというと、自分の弱さにかつためです。私は人前に立ってしゃべると、きん張してしまい早口になってしまいます。その弱さにうちかつために、立候補しました。聞いている人に、聞きやすく、ゆっくりとしゃべることは、難しいです。しかし、私の一つ上の先ばいが児童会長を務めていつも立派にあいさつをしたり行動をしたりしていました。そんな先ばいのように、私もなりたいたいと思ひ、児童会長に挑戦しました。そんな私の気持ちとルーチョの自分の弱さを受け入れた強い生き方が重なっているように感じました。

ルーチョは山小屋でキアラという少女に出会います。ルーチョは人の手をかりることをきらっていました。そんなルーチョにキアラは「誰だって、人に頼って生きてるの。できないことは誰にでもある。」と言ひました。

児童会長の仕事も一人ではできませんでした。総務・放送委員のみんなが支えてくれたからこそ児童会長ができました。例えば、あいさつ運動です。みんなで大きな声であいさつをするように呼びかけることができました。目の見えないルーチョがキアラに頼って、山を登りました。私も最初は、自信がなかったけど、みんなのおかげで児童会長の仕事ができました。

ルーチョは荷物がいっぱい入った重いリュックサックを背負って、高い山を登りました。目が見えなくても、キアラのおかげで登りきることができました。

生きるということも、そういうことなのかもしれません。これからもさまざまな所で挑戦し、自分のものの見え方を一歩ずつ広げていきたいです。それが「飛ぶための百歩」なのだと思います。

